

基調講演

「ウクライナ戦争とエアパワーをめぐる諸課題」

講演者

小泉 悠



1982年千葉県生まれ。早稲田大学社会科学部、同大学院政治学研究科修了。政治学修士。民間企業勤務、外務省専門分析員、ロシア科学アカデミー世界経済国際関係研究所客員研究員、公益財団法人未来工学研究所特別研究員を経て、東京大学先端科学技術研究センター准教授、一般社団法人DEEP DIVE共同設立者/理事。専門はロシアの軍事・安全保障。著書に『ウクライナ戦争』（ちくま書房）、『ロシア点描』（PHP研究所）、『ウクライナ戦争の200日』『終わらない戦争』（ともに文春新書）、『オホーツク核要塞』（朝日新書）などがある。2019年12月、『「帝国」ロシアの地政学』（東京堂出版）で第41回サントリー学芸賞社会風俗部門を、2022年11月、『現代ロシアの軍事戦略』（ちくま書房）で第8回猪木正道賞特別賞を受賞。

特別セッション

「ウクライナ戦争とインド太平洋地域の国際秩序」

司会者

山口 嘉大 1等空佐



航空研究センター長

防衛大学校地球科学科卒業、米空軍大学指揮幕僚大学卒業、防衛研究所一般課程修了、政策研究大学院大学戦略研究プログラム修了、米国防大学情報・サイバー空間大学修了

航空自衛隊入隊後、北部航空警戒管制団第33警戒隊長(兼ねて加茂分屯基地司令)、航空幕僚監部防衛部情報通信課、同 人事教育部人事計画課制度班長、第9航空団基地業務群司令、航空研究センター研究企画管理室長などを経て現職

発表者

小泉 悠

東京大学 先端科学技術研究センター准教授

デレック・グロスマン教授



1981年ニューヨーク生まれ、カリフォルニア在住。現在、ランド研究所上席研究員(Senior Defense Analyst)及びランド研究所政策大学院教授。また、南カリフォルニア大学客員も務める。ミシガン大学及びジョージタウン大学大学院を経て、米インテリジェンス・コミュニティ(IC)にて10年以上勤務。過去には、国家安全保障局(NSA)、米国防情報局(DIA)、中央情報局(CIA)において勤務。専門は、インテリジェンス、国家安全保障及びインド太平洋における安全保障である。特に、インド太平洋における地政学や同地域において幅広く米中大国間競争を地域諸国がどう認識し、対応しているかといった点や地域諸国間における連携に焦点を当てた研究を行っている。Foreign Affairs、Foreign PolicyやInternational Security誌への寄稿やBBCやCNN等といった主要メディアの取材協力も実施している。また、日経新聞紙においては、定期的にエッセイを寄稿している。米国内では、インド太平洋安全保障専門家として著名な研究者

トシ・ヨシハラ教授



トシ・ヨシハラはCSBA上席研究員。専門はインド太平洋地域の安全保障、海軍戦略、中国のシーパワー等。CSBA所属前は米海軍大学のアジア太平洋研究所ジョン・A・ヴァン・ビューレン議長兼戦略学教授。トシ・ヨシハラは、中国の海洋戦略研究では米国有数の権威とされる。また、ジョージタウン大学ではインド太平洋の海軍力について教鞭をとる。著書に、『Mao's Army Goes to Sea: The Island Campaigns and the Founding of China's Navy (邦題: 毛沢東の兵、海へ行く)』(単著、2022年)、『the second edition of Red Star over the Pacific: China's Rise and the Challenge to U.S. Maritime Strategy』(共著、2018年)、ほか多数あり、邦訳版も出版されている。トシ・ヨシハラは、2021年にCSBAのレポート『Dragon Against The Sun: Chinese Views of Japanese Seapower』で(公財)国家基本問題研究所から日本研究賞を、2016年に米海軍大学での海軍及び戦略に関する学識が認められ、海軍文民功労賞を受賞している。

中谷 寛士 3等空佐



航空研究センター 防衛戦略研究室 研究員
博士(政治学)。専門は、戦略論(抑止、同盟、情報)、冷戦史、国際政治。英レディング大学卒。航空幕僚監部防衛課勤務を経て、2023年9月から2024年8月までの間、ランド研究所アジア太平洋政策研究センター客員研究員を務める。他、笹川平和財団「新領域抑止研究会」委員、東京大学公共政策大学院や国土館大学において安全保障に関する特別講義等を実施。最新の論考として、米外交誌 The Diplomat “The Australia-Japan-US Trilateral: Forming Collective Deterrence in the Indo-Pacific”(2024年11月)がある。航空研究センターにおいて主に抑止をはじめとする戦略について幅広く研究を行う。

第1セッション

「ウクライナ、宇宙時代の戦場 ～「初の商業戦争」に関する国際秩序～」

司会者

荻野 匡史 1等空佐



航空研究センター 防衛戦略研究室長
防衛大学校航空宇宙工学科卒業、オランダ国防大学欧州安全保障課程修了、
中国人民解放軍国防大学国際問題研究課程修了、防衛研究所一般課程修了。
航空自衛隊入隊後、外務省北米局日米安全保障条約課課長補佐、第6航空団
修理隊長(小松基地)、第9航空団整備補給群司令(那覇基地)、航空幕僚監部
整備・補給課長などを経て現職。2015年から2018年まで、在中国防衛駐在官
(その間、空軍武官団長)として、同時期に開始された習近平主席の中国軍改革
や軍民融合戦略の動向などを実地に確認

発表者

村井 友秀



東京国際大学特命教授。防衛大学校名誉教授。1978年、東京大学大学院国際
関係論博士課程単位取得退学。米ワシントン大学国際問題研究所研究員。
1993年より防衛大学校国際関係学科教授、国際関係学科長、人文社会科学群
長、総合情報図書館長を歴任。2015年、東京国際大学国際戦略研究所教授、
防衛大学校名誉教授。2020年より現職。日本防衛学会名誉会長。平和安全保
障研究所監事研究委員。防衛省新防衛政策懇談会委員。単著『日中危機の本
質』、2021年、PHP、共著『失敗の本質』、1984年、ダイヤモンド社

東 誠



北九州市立北九州大学外国語学部米英学科学士課程卒業(1978年)、航路気象
サービス会社オーシャンルーツ日本社長、米国本社社長、気象サービス会社ウェ
ザーニューズ取締役(1978-1993)、1994年から財団法人リモートセンシ
ング技術センター、イメージワン、NTTデータGC、日立製作所で衛星データ販売事
業に携わり、2013-2019年に日本スペースイメージング社長、その後、地球観
測事業と宇宙状況監視事業のコンサルタント会社、ブレイズイーストを設立し、
QPS研究所の顧問(～2023年10月まで)、ICEYE顧問、LSAS Tec.執行役な
どを歴任、今に至る。

航空宇宙防衛力シンポジウム

大国間競争時代のエア・アンド・スペース・パワー～ウクライナ戦争の教訓～

瀬尾 耕造



三菱電機株式会社 防衛・宇宙システム事業本部 防衛システム事業部 主席技師

井上 榛香



宇宙開発や宇宙ビジネスを専門に取材・執筆活動を行うフリーライター。一般社団法人九州みらい共創理事。1994年生まれ、福岡県出身。小惑星探査機「はやぶさ」の活躍に感銘を受け、宇宙開発に関心を持つ。学生時代は、留学先のウクライナ・キーウで国際法を専攻した。宇宙ビジネスメディア「宙畑」でニュースのキュレーションを担当するほか、子ども向けからビジネスマン向けまで、幅広い媒体に宇宙に関する記事を寄稿している。著書に『宇宙を編む』などがある。

山田 尊也 2等空佐



航空研究センター防衛戦略研究室研究員。2等空佐。修士(社会科学)。防衛大学校航空宇宙工学科卒。同総合安全保障研究科修了。航空幕僚監部、統合幕僚監部や各級司令部等で指揮官の法的補佐等を行う法務幕僚として勤務の傍ら、大阪大学大学院国際公共政策研究科で招聘研究員を務める等した。2023年10月より現職。著作に、「宇宙での戦闘—イラン発射弾道ミサイル迎撃対処と宇宙戦法規」、JASIレポート、R6-07、2024年などがある。専門分野は、主に宇宙戦など先端技術分野を用いる作戦及びそれに適用される法規について、工学的側面と安全保障学的・法的側面との文理融合的な研究を行う。

水町 亮介 3等空佐



航空研究センター 運用理論研究室 研究員
前配置は、宇宙作戦群宇宙作戦指揮所運用隊宇宙作戦指揮所運用班長等として、活動方針の検討や部隊広報を担当した。
一般空曹候補生として入隊し、当初は情報員として作戦情報隊に配置。翌年幹部候補生学校に入校。卒業後は補給幹部として、航空機部品等の補給関連業務・施設整備・学生教育に携わる。
京都芸術大学芸術学部卒業。米空軍後方幹部課程(テキサス州)修了。航空自衛隊指揮幕僚課程卒業。宇宙運用中級課程(有志連合)修了。
米国留学中、ジョンソン宇宙センターを訪れたことを契機に宇宙に高い関心を持ち、指揮幕僚課程卒業を契機に宇宙特技へ転換。宇宙作戦群を経て現職。研究分野は、ミリタリー・スペースパワー。

第2セッション

「エア・パワーの新たな地平 ～ウクライナ戦争を事例に～」

司会者

高木 亮 1等空佐



航空研究センター 運用理論研究室長

防衛大学校航空宇宙工学科卒業、陸上自衛隊指揮幕僚課程修了、航空自衛隊幹部高級課程・統合高級課程修了。

航空自衛隊入隊後、第6航空団第303飛行隊(小松基地)、航空幕僚監部防衛部防衛課、統合幕僚監部防衛計画部計画課、第5航空団防衛班長(新田原基地)、第9航空団第304飛行隊長(那覇基地)、内閣幹部国家安全保障局などを経て現職。

発表者

トラビス・ハレン 大佐



ハレン大佐は2000年に航法士訓練生として豪空軍に入隊しました。2002年に訓練を終えた後、大佐は11の部隊において、AP-3Cの訓練及び飛行任務を実施しました。大佐は乗組員、訓練及び指揮官として計2000時間を超えるAP-3C搭乗時間を有しています。大佐は現在豪空軍戦略計画局長であり、豪空軍が今後迎えるであろう場面や危機に対して取りうる選択肢を広げることに務めています。また、ハレン大佐は余暇を博士課程学生としての研究活動に充てており、スウェーデンの戦略ポリシーが冷戦期におけるスウェーデンのエアパワーの発展に与えた影響について研究しています。

ローリー・クーパー 大佐



ローリー・クーパー大佐は、太平洋空軍司令部戦略計画局長です。2005年に統合特別航法士学部課程を修了し、2010年に中隊長士官学校を卒業しました。また、EC-130H電子戦機の航法士、米空軍RQ-4Bグローバル・ホークの操縦士、第7偵察飛行隊(RQ-4Bグローバル・ホーク発進・回収)の指揮官、2回にわたるレッド・フラッグ演習分遣隊指揮官、第9偵察飛行隊兵器担当官、第99遠征偵察部作戦隊長(U-2S/RQ-4B)、太平洋空軍戦争計画部長を務めました。クーパー中佐は航空宇宙学の修士号を保有しています。

田中 義一 2等空佐



航空研究センター 研究企画管理室員

日本大学法学部卒業。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了。修士(政治学)。その後航空自衛隊に入隊し、現職の傍ら、政策研究大学院大学国際的指導力育成プログラム在籍中。関心分野は防衛政策史、戦略研究。著作に「DDV構想、『いずも』型護衛艦改修の要因—軍事戦略論の視点から」『鵬友』第47巻第4号、2021年、「キーウの戦いにおけるロシアのエア・パワー—ロシアの戦略爆撃の様相とキーウ占領の失敗」『JASIリサーチメモ』R6-4号、2024年などがある。

渡邊 旭 3等空佐



航空研究センター 防衛戦略研究室 研究員

中央大学法学部卒。防衛大学校総合安全保障研究科修了。修士(安全保障学)。高射部隊等での勤務ののち、北部航空方面隊司令部、防衛大学校を経て現職。関心分野はドローン、エアパワー論。著作に「低高度空域と航空作戦との関連性：ブレマーらによる「航空拒否」概念の検証」『エア・アンド・スペース・パワー研究』第12号、2024年10月、マーク・E・スティール『マレー進攻航空作戦1941-1942—世界を震撼させた日本のエアパワー』橋田和浩監訳、芙蓉書房出版、2023年(分担翻訳)。など。

討論者

道下 徳成



政策研究大学院大学(GRIPS)理事・副学長・教授。アトランティック・カウンシル非常勤シニアフェロー。専門は日本の防衛政策、朝鮮半島の安全保障。内閣官房(安全保障・危機管理)参事官補佐、防衛省防衛研究所主任研究官などを歴任。著書・論文に“The US Maritime Strategy in the Pacific during the Cold War”; *Lessons of the Cold War in the Pacific: U.S. Maritime Strategy, Crisis Prevention, and Japan's Role*、『北朝鮮瀬戸際外交の歴史、1966～2012年』などがある。ジョンス・ホプキンス大学(SAIS)博士(国際関係学)